

# 基盤整備部会における 委員からの関連体系図への 意見及び対応方針(案)

(第3回基盤整備部会資料)

令和3年9月9日

## 意見書様式(修正案用)

(関連体系図(案)に対する意見)

番号	意見者	② 成果指標		指標(案)	目標値	理由等	対応方針(案)	備考	担当課
		施策番号	指標名						
1	高良副部長	-	-	-	-	目標値などの数値について、コロナ以前に戻って、それを始点としてこれまでの傾きで上がっていくというように見える。コロナでこれだけ凹んで、それが何年かで立ち上がるというところになっているが、コロナ後において何年で立ち上がるという経済モデルや数理モデルを提示する必要がある。	【総合部会申し送り】	第2回意見	-
2	青木専門員	1-(12)-1①	那覇空港の年間旅客数	-	-	空港の機能強化によって旅客数が増えるということを指標とするよりも、どういった空港機能の水準を高めていきたいのかを明確にし、空港利用客のハンドリングや、アクシデント発生時の医療体制や連絡体制について、空港の機能が備わっていたか、スムーズに問題の解決ができたなどをアンケートにより評価すべきである。	【原案のとおり】 旅客数は、空港施設整備における処理能力や施設規模を算定する際の指標にも用いられており、那覇空港の機能や規模を定量的に反映するものとして、「年間旅客数」を成果指標に設定しております。 委員ご指摘のとおり、那覇空港旅客の特性やニーズを把握のうえ、調査項目を設定し、旅客および空港従事者にアンケート調査を行うことで、那覇空港の様々な機能やサービスを適切かつ細やかに評価できるものと考えますので、那覇空港に関する調査・研究において取り組んでいきたいと考えております。	第2回意見	交通政策課

(別紙 2-4)

3	平良専門委員	-	-	-	-	軍用地使用料を入れた推計モデルについて、産業化の波及効果は少ないと思うが、県民所得の計算はどのようなのか算出する必要がある。	【総合部会申し送り】	第2回意見	-
4	平良専門委員	-	-	-	-	県民所得は展望値ではなく目標値とすべきである。	【総合部会申し送り】	第2回意見	-
5	神谷専門委員	-	-	-	-	「計量計算モデル」として説明のあった「展望値」の算出方法は、統計的検定がない単回帰モデルではないか。施策においてロジックモデルを組むのであれば、システムダイナミクスモデルを構築し、例えば、県民所得にどのような効果があるかまで示す必要がある。また、物流などの議論であれば、産業連関モデルを組み込んだり、応用一般均衡モデルなどで示す必要がある。	【原案のとおり】 (理由) 計量経済モデルを作成の上、外生値(観光収入、農林水産生産額の目標値等)を投入し展望値を算出しております。	第3回意見書	企画調整課
6	神谷専門委員	-	-	-	-	特定の数値を施策の達成目標として出すのではなく、クロスセクター効果を明示したほうがよい。例えば、グリーンスマートシティでは、移動手段だけで評価するのではなく、人のつながりを作る価値、まちの賑わいを創造する価値など便益では出ない価値を高く評価している。必要がある。主たる効果な何で、副次的な効果はどこに生み出されるのかを整理する方法もある。	【原案のとおり】 (理由) 素案では施策と客観指標を1対1で設定し、ロジックモデルを構築可能な体系としております。数値的な評価を行うことができるものだけではなく、数値に表れない効果の評価手法についても、今後の参考とさせていただきます。	第3回意見書	企画調整課

(別紙 2-4)

7	神谷専門委員	-	-	-	-	次の10年は沖縄でも人口減少社会に向かうかもしれない。少なくとも生産年齢人口は減少社会に向かう。その中で増加トレンドだけを見ることの危険性を認識する必要がある。	【原案のとおり】 (理由) 既に北部地域や県内離島地域の多くでは人口減少が進行しており、県全体としても2030年前後をピークとして人口減少に転じる見込みであるため、経済活動のほか、生活基盤にかかわる様々な活動へ人口減少が及ぼす影響についても、「本県を取り巻く時代潮流」(素案P8)で取り上げるなど懸念しております。	第3回 意見書	企画調整課
---	--------	---	---	---	---	--	---	------------	-------